

よつば学級 2 学期の反省

あいさつを自分から進んで行うことができるようにする。

- こちらから、挨拶をすると必ず返してくれている。しかし、自分からあいさつをできる子はまだまだ、少ない。元気よく挨拶をするように今後も声掛けをしていく。(1 学期)
- 自分からあいさつを増えてくる回数が増えている。この意欲を維持して、挨拶をさせていきたい。(2 学期)

一人ひとりの良さを知る機会を持つ。

- 良いこと発表を通じ、互いの良いところを認め合うことができる。また、良いことは進んでしようとする気持ちを持たせることができた。(1 学期)
- 低学年を中心に他の子を褒めることができていた。そのためか、普段から仲が良く、けんかをしてもしすぐに仲直りができる。(2 学期)

交流学級担任と連携し、交流学級の友達や先生とも進んで関わることができるようにはたらきかける。

- 交流学級の担任の先生と連携をとることによって、交流学級とのかかわりも増えており、昼休みに交流学級の友達と遊ぶ姿もよく見られた。(1 学期)
- 教室だけでなく外で遊ぶことも増えており、より交流学級とのかかわりが増えてきている。(2 学期)

子どもが自分で自分の身を守るように安全に気を付けさせる。

- 不審者情報や、校内における危険なことに関して、情報を共有して自分自身の身を守るためにどうすれば良いかを一緒に考えることができた。(1 学期)
- 危険なことや、してはならないことについてお互いに注意をし、約束を守ろうとする意識が見られる。ただ注意について厳しすぎる面も見られた。(2 学期)

(学習面)

一人一人の個に応じた学習計画を立てて進めていく。

- 子供たちの様子を見て、学習を進めてきた。それぞれの得意分野や、その時の気持ちに合わせながら、内容や教材を変え個別指導に努めた。(1 学期)
- それぞれの力に合わせて使う教具を変えてがんばらせてみた。以前より計算はスムーズにできるが、使いこなすことが難しい面がある。(2 学期)

子どもたちが主体的に学習できる取り組みを取り入れていく。

- 自分たちで課題に臨む力がついてきている。わからないところは、わからないと伝えることができ、自分で進める機会が増えた。(1 学期)
- 問題が多いと、その量に意欲を失いなかなか進められない面がみられる。問題を少しずつだすとやる気がでて最後まで取り組もうとする意識が見られる。(2 学期)

読書の楽しさに触れる機会をつくる。

- 読書の時間を充実させ、本を読む機会を増やしてきた。(1 学期)
- 目標を持ち、1 学期よりも本を読もうとする姿が見られた。(2 学期)